

「明治150年」関連施策に関する
国立情報学研究所 神門典子教授からの御意見

平成29年3月2日

「明治150年」関連施策の推進に関し、内閣官房「明治150年」関連施策推進室において、国立情報学研究所の神門典子教授から、歴史的資料をデジタル・アーカイブ化することの意義等について、御意見を伺った。概要については、以下のとおり。

- ◆ 経年劣化が限界にきている資料も多い。「明治150年」を資料のさらなる劣化・散逸を防ぐ契機とすると良い。

デジタル・アーカイブ化を進めることは非常に良いこと。1つしかない紙資料であっても、デジタル化されていれば、同時に複数の者がアクセスすることができる。

今回の取組を契機として、一般の人々が歴史的資料を身近に感じ、関心を持つようになって欲しい。SNSと連携することも一案だろう。

- ◆ 「次世代へ遺す」という点では、オーラル・ヒストリーを充実させてはどうか。有名人に限らず、一般の人にも「話して」もらい、これもデジタル・アーカイブとして映像記録を残しておくことには価値がある。

- ◆ デジタル・アーカイブ化した資料は、研究者だけではなく、一般の人々や海外の人々にとってもアクセスしやすい形で活用することが適当。そのためには、資料をストーリー性のあるコンテンツとして提供することが考えられる。海外の学会に出ると、日本に関心がある人が多いことに驚かされるが、外国の人に日本のことをより知ってもらうきっかけにもなると思う。

明治維新の例でいえば、「五箇条の御誓文」などの重要資料に触れつつ、近代日本の成立過程をまとめたコンテンツはどうか。デジタル化した重要資料には、コンテンツの中でリンクを張っておき、アクセスした人の中でさらに興味を持った人が見られるようにしておけば良い。

- ◆ 小学校や中学校の社会の授業と連携することも考えられる。あるテーマについて、デジタル化した資料に触れる機会を設け、なぜその資料ができたのか、どのような影響があったのか等々について、一方的に「教える」のではなく、生徒に問いかけ、考えさせるカリキュラムを組むことはできないか。

- ◆ デジタル化した資料を有効に活用するためには、検索システムを整備することが不可欠。同じテーマに関する資料であっても、複数の所蔵館に分散して保存されていることも多いので、各所蔵館を横串にして横断検索できるシステムを作ることが望ましい。

検索システムをせっかく作るのであれば、他分野の検索システムとも連携できるようにすると良い。歴史的資料は、地方の公文書館はもちろん、美術館や博物館、あるいは大学に所蔵されていることも多く、他分野の検索システムとも連携できれば、利便性も高まると思う。

以 上